

PONO KIDS桜山 令和7年度 放課後等デイサービス 事業所評価結果報告書

事業所名: PONO KIDS桜山

所在地: 神奈川県逗子市桜山

サービス種別: 放課後等デイサービス

評価実施日: 令和7年12月

改善検討会議: 令和8年2月28日

公表日: 令和8年3月

1. 回答状況

区分	対象	回答数
保護者評価	利用児童の保護者	17名
従業者評価	事業所職員	7名

2. 評価結果と事業所の対応

環境・体制整備

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
スペースの適切さ	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
職員の配置数	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
環境の構造化・バリアフリー	15/17 (88%)	7/7 (100%)	現状維持
清潔さ・過ごしやすさ	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
個別スペースの確保	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

送迎について、複数児童を同一場所からピックアップする際は添乗員をつけ2名体制で対応している。ただし校時刻により人員配置が難しい状況がある。現段階では放デイ児童数が少ないため対応できているが、今後の児童数増加に伴い困難になる可能性がある。安全確保が困難な場合は保護者送迎への切替、送迎時刻の調整、系列施設への送迎協力依頼で対応する。逗子の土地柄、公道が狭いため送迎車3台のうち1台を軽自動車としているが、長期休み中は児童数により送迎が困難になる場合がある。

業務改善

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
PDCAサイクルへの職員参画	—	6/7 (86%)	現状維持
保護者評価の活用	—	7/7 (100%)	現状維持
職員意見の反映	—	7/7 (100%)	現状維持
第三者評価の実施	—	0/7 (0%)	改善困難
研修機会の確保	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

支援会議は土曜日に実施しており、Chatworkを活用した全体共有も行っている。

会議での発言者が限られる傾向があるため、発言が少ない支援員に対して意図的に発言機会を設ける。第三者評

価については、費用・体制面から現時点では実施困難である。
 研修は定期的に実施し、記録を残すことで個々の視点や課題を可視化している。

適切な支援の提供

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
支援プログラムの作成・公表	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
個別支援計画の作成	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
計画に沿った支援の実施	15/17 (88%)	7/7 (100%)	現状維持
プログラムの固定化防止	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
モニタリング・計画の見直し	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

個別支援計画書に目を通さずにプログラムを設定し、本来の目標に沿わない活動になるケースがあった。改善策として、利用児童の個別支援計画を支援室内に掲示し、5領域のねらいを常時確認できるよう可視化する。

関係機関との連携

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
相談支援事業所との連携	—	7/7 (100%)	現状維持
地域関係機関との連携体制	—	7/7 (100%)	現状維持
学校との情報共有	—	6/7 (86%)	現状維持
地域交流の機会	4/17 (24%)	5/7 (71%)	現状維持

改善検討の結果:

学校や園へ利用児童の月次ハイライトを渡しているが、フィードバックが少ない。今後はアセスメント時にハイライト共有について保護者へ説明し、同意を得たうえで保護者から学校側へ渡していただく形をとる。地域交流については、個別支援のみの利用者には該当しない場合がある。

保護者への説明・家族支援

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
運営規程等の説明	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
計画の説明と同意	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
日常的な情報共有	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
面談・助言の実施	15/17 (88%)	7/7 (100%)	現状維持
保護者同士の交流機会	13/17 (76%)	6/7 (86%)	現状維持
共感的支援	14/17 (82%)	—	現状維持
苦情対応体制	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
情報発信	14/17 (82%)	6/7 (86%)	現状維持

改善検討の結果:

重要事項説明は契約時に保護者と読み合わせを行い、終了後に質問の有無を確認している。
 情報発信はLINEで実施。保護者からの疑問・要望には迅速に対応している。

非常時の対応・安全管理

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
マニュアルの策定・周知	13/17 (76%)	7/7 (100%)	現状維持

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
避難訓練の実施	13/17 (76%)	—	現状維持
安全計画の周知	14/17 (82%)	7/7 (100%)	現状維持
事故時の説明	15/17 (88%)	—	現状維持
BCP策定・訓練	—	6/7 (86%)	現状維持
ヒヤリハット共有	—	7/7 (100%)	現状維持
虐待防止研修	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

災害時の送迎・引き取り基準を明文化し、保護者へ周知する。

避難訓練は半年に1回実施し、議事録を残している。

事故防止・虐待防止の研修を実施し、記録を残している。

人員配置を徹底することで緊急時にも即座に対応できる体制を整えている。

3. 保護者からのご意見（抜粋）

- 娘に寄り添ってくださり、不安定な時も娘にとって良いようにと考えてくださるので嬉しい。
- 活動の様子の写真を送っていただくと、凄く良い表情で取り組んでいる。
- 好きなプログラムだけ選んでいいルールにしたらストレスがなくなったようだ。
- 複数ある部屋で目的に応じて活動でき、体を動かすことが好きな子にとってとても良い環境。
- 実際に利用中に地震が発生し津波警報が発令された際、対応がわからず不安だった。災害時の送迎や引き取りについて基準があると家庭側もスムーズに動ける。

4. 今年度の主な改善事項

1. 個別支援計画の可視化 — 支援室内に掲示し、プログラム立案時に5領域のねらいを常時確認できるようにする。
2. 支援会議での発言促進 — 発言が少ない支援員に対して意図的に発言機会を設ける。
3. 学校・園との連携強化 — アセスメント時に保護者への説明と同意取得を行い、ハイライト共有の実効性を高める。
4. 災害時対応の明文化 — 災害時の送迎・引き取り基準を明文化し、保護者へ周知する。

5. 補足事項

バリアフリーについて:

当事業所では、視覚支援（スケジュールの視覚化、環境の構造化等）を日常的に実施しており、利用児童の障害特性に応じた情報伝達上の配慮は行っている。評価項目における「バリアフリー」の文言が物理的な身体障害対応を想起させるため評価が分かれる傾向があるが、当事業所の利用対象児童の特性に応じた環境整備は適切に実施されている。

情報発信について:

HPは令和7年度にリニューアル済みであり、事業所の情報発信はHP及びLINEを主たるチャンネルとしている。SNSによる発信は、撮影・アップロードに係る支援員の業務負荷（支援時間の圧迫）、および児童の個人情報保護の観点から、現時点では積極的な運用を行わない方針としている。今後はLINEのリッチメニューを活用し、マニュアル・災害対策・避難計画等の情報を保護者がいつでも確認できる体制を整備する予定である。

災害時対応について:

保護者評価において、実際の地震・津波警報発令時に情報が届かず不安を感じたとのご意見をいただいた。避難訓練は半年に1回実施し記録を残しているが、保護者への情報到達が不十分であった。災害時の送迎・引き取り

基準を明文化するとともに、LINEのリッチメニューへの掲載により、保護者が必要な時にいつでも確認できる仕組みを構築する。

保護者との定期面談について:

全事業所において、モニタリング面談に加え、家族支援として定期的な面談の仕組みを設けている。保護者評価において「面談・助言」で「いいえ」「どちらともいえない」の回答があるのは、利用曜日や時間帯の都合で参加が難しい保護者がいることによるものと考えられる。

支援終了後の振り返りについて:

送迎業務の都合で支援終了直後に対面での振り返りが困難な場合があるが、Chatworkを活用した日報共有により、当日の支援内容・児童の様子・気づきを全支援員で共有する仕組みを構築している。これにより、対面での打合せが困難な場合でも情報の欠落を防いでいる。

評価結果の事業所間差異について:

当法人では桜山・鎌倉の各事業所で同一の運営体制・業務フローを採用している。従業者評価における自由記述の量や具体性に事業所間で差が見られるが、これは支援の質の差ではなく、評価記入に対する個々の職員の記述量の違いによるものである。